

政務調査費を有効活用しませんか？

川村雅則（北海学園大学）／2011年11月01日

最近、政務調査費（以下、政調費）の不正な使用・不祥事をめぐる報道が気になります。「そんなことに政調費を使うな」「政調費を減額せよ」という市民の厳しい声が寄せられているようですが、当然といえば当然でしょう。

ただ、やや自虐的な意味をこめつつも「調査屋」を自負する自分としては、政務調査費という単語にこめられた「調査」そのものがおとしめられている気がして、なんだか寂しい気分です。

ところで、この政調費ってどんなことに使えて、どのくらい支給されているのでしょうか？私もよく知らなかったので、札幌市議会のホームページ¹をのぞいてみました。

同ページによれば、まず目的は、「政務調査費とは、『地方自治法(第100条第14項・第15項)』により制定された、『札幌市議会政務調査費の交付に関する条例』に基づき、議会における会派に対し、札幌市議会議員の調査研究に資するために必要な経費の一部として交付されるもの」と記載されています。

交付金額は、「月額40万円×会派に所属する議員数」（40万円！結構もらえるんですね）。そして、使途については表のとおりです。

表 政務調査費の使途

研究研修費	研究会の開催や他団体主催の研究会参加などの経費
調査旅費	先進地調査や現地調査を行う経費
資料作成費	資料を作成する経費
資料購入費	図書や資料などを購入する経費
広報費	会派や議員の調査研究活動や市政などの報告経費
広聴費	市政などについて市民の意見聴取などを行う経費
人件費	調査研究活動を補助する職員を雇用する経費
事務所費	調査研究活動に必要な事務所を設置し管理する経費

¹ 札幌市議会 <http://www.city.sapporo.jp/gikai/html/seimuchosahi.html>

調査費というには「範囲」がひろすぎないかと思われる方もいるかもしれませんが、たしかに、調査には思わぬお金があれこれかかるのも事実ですし（調査屋の経験）、広報や広聴というのも、調査を成功させる上では大事なものだと思います。

もちろん、だからといって「なんでもアリ！」というわけではなく、当該の作業にお金を使ったことの正当性を証明する必要があることは、言うまでもありません。

さて、ここから、なんだか話はあやしくなっていますが、例えば私が所属している NPO 法人 建設政策研究所の北海道センターで行っている調査では、じつに多額のお金がかかっています。

2009 年に行った「季節労働者調査」と「建設事業者調査」のうち、アンケート調査費用を例にすると、アンケートだけで以下のとおりです。

■ 季節労働者調査	
対象者へのアンケート発送	75円×12,075人=905,625円
アンケートの返送・回収 ²	95円×1,570人=149,150円
■ 建設事業者調査	
対象者へのアンケート発送	75円×3,762事業者=282,150円
アンケートの返送・回収	95円×780事業者=74,100円

調査方法の改善の余地・必要性があることは自覚していますが、とりあえず、合計140万強ものお金がかかっています。

あるいは私個人の調査研究³を例に出しますと、昨年に行った保育労働の調査研究費（アンケート費用）は以下のとおりです。

対象者へのアンケート発送	85円×834園=70,890円
アンケートの返送・回収（保育園）	95円×321園=30,495円
同上（保育士）	95円×2455人=233,225円

² 有効回答数を使っているのですが、実際には、無効回答の回収分がプラスされません（以下、同様）。

³ 大学の調査研究には、大学から費用が支出されているのではないかとされているふしがありますが、必ずしもそうではないのです。この点は（ぼやき・嘆きとあわせて）後日。

いやはや、アンケート費用だけで30万超です。

ちなみに、誤解のないよう申しておきますと、(1) 例え費用がかさむとしてもやらねばならぬことはやはりやるべきだと思いますし、(2) 例えば保育士さんたちからの回答が2455人！にも及んだのは、予想外の、たいへん嬉しい！誤算であったことです（たくさんのご協力・返信に「感動した！」）。

さて、こんな話を書き連ねてきたのは、表題からもお察しのとおり、政務調査費を有効活用すべく、私どもに調査の委託をしませんか、という政党・政治家のみなさんへの呼びかけです。露骨に言えば、営業活動です（ほんとに露骨ですみません）。

もちろん、私どもには、よい仕事をする（それなりの）自負と実績があります⁴。結果が出せなければ、いただいた政調費は返納します。さらに、当たり前ではありますが、どんなことにどれだけのお金がかかったかは、明朗会計、すべて公開いたします。

では、調査を発注する政党・政治家のみなさんにはどんなメリットがあるかと申しますと、、まず、何よりも、市民生活の向上に役立つ成果が得られるわけです。これは公共財というか、まさにお宝といえるでしょう（繰り返しになりますが、お宝をつくれるかどうかの責任は私どもにあります）。

さらに、副次的なメリットとして、そういう仕事を発注した手柄も得られるわけです。

なによりも、グレーな使い方をして市民に批判を浴びるよりも、こちらのほうが絶対に！有効活用だと思うのです。文字通り、政務「調査」費という名にもフィットしますし。

つづめていえば、市民に「宝」を、あなたに「手柄」を！

(いい語呂ですね)

そんなわけで、政調費を使った調査の委託を心よりお待ちしております。

⁴ 実績につきましてはこちらを。<http://www.econ.hokkai-s-u.ac.jp/~masanori/>